



性別・国籍を超えて
選手主役のオリンピック



東海中新聞

NO. 362
令和3年8月号

五輪に見る
称える気持ち

校長 今枝武司

開催の是非の賛否両論が飛び交う中、選手が主役の東京オリンピックが閉幕し、東京パラリンピックが開幕しています。テレビを通して観戦した人も少なくないのではないのでしょうか。みなさんはどんな種目のどんな場面に心動かされました？部活動の種目には興味があり、釘付けになって観戦したことでしょうか。

私は経験した野球やソフトボールの金メダルに感動しました。一番感動したのはと問われると、メダル獲得ではない場面でした。それは、スケートボードの岡本選手が試合後、ライバルたちに抱き上げられた場面です。

高浜市出身の中学校三年生の岡本碧優選手は、直前まで暫定3位でしたが、イギリスのブラウン選手に抜かれたため、高難易度の技に果敢に挑戦します。最後のジャンプで失敗し、頭を抱え悔し泣きを見せる岡本選手に、他の選手たちが駆け寄り、抱え上げられ、泣き笑いの顔で手を振った場面です。

難しい技に果敢に挑戦した姿勢に対

して、それをリスベクトし、年齢や国籍に関係なくハグし合って健闘を称える様子に思わず泣きそうになりました。これこそ、相手を称えるというスポーツマンシップです。バドミントン県大会の さんの試合での姿を思い出しました。 さんはサーブを打つ時、相手の心と体のバランスが整うまで、つまりレシーブ姿勢になるまでサーブを打つ姿勢のままずっと待っていました。それが五秒かかろうと十秒かかろうとです。相手を思うその姿が素敵でとても清々しく思いました。

今回の大会はボランティアの方々にもスポットが当たりました。コロナ禍などの影響で約1万人の辞退もありましたが、オリンピックとパラリンピックに約七万人が参加しました。閉会式では競技場や選手村で活動したり、街や駅で道案内などをしたりした方々が表彰されました。多くの選手がSNSでボランティアの方々の方々の素晴らしさを発信していて、日本人として誇らしかったです。

いよいよ二学期が始まります。この先、多くの試練や困難が待ち受けているかもしれませんが、「生徒全員が主役になれる二学期」を目指し、全校一丸で進めていきましょう。みなさんの素敵な笑顔、果敢な挑戦、学年男女関係なく称えあう姿を楽しみにしています。

わたしの歩み

自分で考えて行動する

一年三組

私は、中学校に入学して「自分で考えて行動できるようにになりたい」と思っていました。一学期がんばったことは二つあります。

一つ目は勉強です。小学校の時よりも勉強する教科や量が多いので、計画を立てて勉強しようと思いました。ただ、はじめは計画の立て方が分からず苦戦していました。しかし、友達から勉強方法を聞くなどして、改善した方がよいところを少しずつ発見できるようにになりました。これ以外にもいろいろな方法を試して改善点を見つけて、最も自分にあった勉強の仕方を見つけていきました。

二つ目は係活動や掃除です。自分に任せられた仕事なので、責任もって一生懸命毎日行いました。掃除では、先生にアドバイスをもらって、黒板がきれいになるように、縦横縦で繰り返し磨きました。今では、手早くきれいに消せるようになりました。他にもクラスのみんなのために進んで行動しました。日直の仕事を手伝ったり、配付物がたまっていれば進んで配ったりしました。これから

は、自分が進んで行動することはもちろんのこと、クラスの仲間と助け合いたいと思っています。みんなが助け合ってみんなが快適で安心して過ごせるようにしたいです。一の三の級訓「ココイチ」であるようにココが一番だ！と全員が思えるように私にできることを積極的に行動していきたいです。

二学期には、初めての体育大会や合唱コンクールがあります。クラス一丸となって、みんなで協力して、がんばってよかったと思えるようにしたいです。また、部活動も本入部となりました。私はバスケットに入部しました。先輩や先生の話をよく聞き、自主練習を行ってバスケットが上手になれるようにがんばります。自分で考え行動できるようにこれからも努力を続けていきます。



一学期頑張ったこと

二年二組

二年生になって私は学級代表になりました。放課になるとたくさんの方が廊下に出て話をしていたので、二年生の学級代表と一緒にルールを決め、クラスのみんなに伝えたり、呼びかけたりしました。また、ポスターに学年で問題になっていることの改善点を見やすくまとめました。このように行動してみたら、だんだんみんなが守ってくれて、クラスや学年がよりよくなったと思います。他にもクラスで決めることがあると、男子の学級代表とどのように進めるか相談し、クラスみんなの意見が出るように工夫しました。二学期に学級代表として活動できるのは残り少ないですが、クラスや学年がよりよくなるように頑張っていきたいです。

部活動で私はバレー部に所属しています。三年生と一緒に練習試合に出させてもらうことができました。以前は、先輩とコミュニケーションがあまり取れなくて、自分の守備範囲が明確にわかっていませんでした。しかし、先輩とバレー以外の話をするようになってから、コートでの動き方や、守備範囲について相談できるようになりました。そのため、以前よりも試合を楽しめるようになりました。



ました。二年生部員は四人しかいないので、試合をするには一年生の力が必要になります。そのため、この経験を生かして、一年生が二年生にプレーで遠慮しないように積極的に話せるようにしたいです。そして、チームの連携が上手いくように相談できる関係を作って強いチームを作りたいです。

部活動を通して気付いたこと

三年二組

僕は中学校に入ってからずっと部活動に力を入れて取り組んできました。アーチェリーという競技は楽しくて、ただ上達したいという一心で打ち込み、努力を重ねてきました。

その努力が実を結び、全国大会でベスト十六に入ることができました。しかし、一年前までは自分が全国大会に出られるなんて思ってもいま

せんでした。

一年前、人間関係も学習も何もかもうまくいかず、学校に行きたくないとさえ思ったこともありましたが、僕には学校に行く理由がありました。それが部活動です。アーチエリーをやっていると心が落ち着き、的の中心に矢が当たるとすごく嬉しい気持ちになりました。部活動の仲間と一緒に過ごす時間も楽しくて、苦しいことを忘れられました。部活動がない時は、庭や市内のアーチエリー場で練習しました。そして、三年生になった頃から試合も増え、結果も出るようになりました。

今考えると、昨年の辛かった時期は無駄ではなかったと思います。私生活で思うようにいかないことがあった分、部活動に集中して打ち込むことができたからです。「努力は報われない」と思った時期もありましたが、今はそうは思いません。努力をすれば、必ず何かの役に立つ。今、この瞬間にできることを精一杯やるのが大切であるということに改めて気づきました。

それから、僕が全国大会に出場できたのは、自分の努力だけではなく、周りの人たちに恵まれていたからだと思います。周りのサポートがなければ、大会に出られなかったから

す。応援してくれた友達や先生方、家族、コーチや先輩方に感謝の気持ちでいっぱいです。

これからも感謝の気持ちを忘れず、今までの経験を、今後の様々な場面であいかして生活していきたいです。



体育大会お願

本校では九月十八日(土)に体育大会を予定していましたが、九月十二日まで愛知県に緊急事態宣言が発出されていること、その間は近距離の活動はできるだけ控えることなどの観点から、練習時間が十分に確保できないと判断し、延期することにしました。ご了承ください。

延期日は十二月十六日(木)です。その日はマラソン・駅伝大会を予定していました。マラソン・駅伝大会と体育大会を合わせた形での開催を考え

ています。

苦渋の決断ではありますが、子供たちの命を守るため、保護者の皆様、学区の皆様には何卒、ご理解いただきませうようお願いいたします。

九月行事予定

- 九月
- 一日(水) 二学期始業式(前半)
- 二分割のオンライン授業開始
- 二日(木) 二学期始業式(後半)
- 十四日(火) 二年岡崎学力検査
- 一・三年実力テスト
- 十八日(土) 体育大会延期で授業
- 金曜授業(弁当)
- 二四日(金) 十八日の代休日
- 二七日(月) 後期生徒会役員選挙
- 新人戦激励会
- 二八日(火) 中間テスト範囲発表
- 二九日(水) キッズデイズ
- 新人戦
- (十月一日まで)

お詫びと訂正

学校新聞七月号で三年四組、君の名前の字を間違えてしまいました。君、本当に申し訳ありませんでした。

教育随想

やまなみ

五輪からみた日本らしさ

教務主任 伊藤 篤史

「初」という言葉が多く聞かれた東京五輪 2020。史上初の一年延期、数々の種目での日本初メダル等、批判と混乱の中ではあったが、競技を巡るドラマに心を動かされた。本土復帰して以来、沖縄初のメダリストとなった空手男子形の喜友名諒選手は、優勝を決めた後、試合会場の中央で座礼し、立ち上がって四方にも頭を下げた。海外選手や記者は、大会ボランティアが「お疲れ様です」と労いの言葉をかけ続けたり、取材環境を整えようと奔走したりする姿に感銘を受けている。コロナ禍という困難かつ異例な状況下の大会ではあったが、礼儀・敬意・親切さという日本の国民性や文化の素晴らしさを感じた。コロナウイルスという見えない敵への不安はまだ続く。しかし安全安心の下、「初」にチャレンジするような柔軟な発想で、大事にした日本の国民性や文化を地域とともに学校教育で育んでいきたい。

東中 P T A だより

東海中 PTA
広報委員会
第 2 1 1 号

市長杯観戦記

市長杯を終えて

卓球部保護者

去年に引き続き、今年も練習が
できること、大きな試合があることが当
り前ではなかった中、今までどおり練
習ができ、市長杯が開催されて試合に
出られることが幸せなことなんだと
中学生なりに感じたのではないでし
ょうか。

団体行動の大切さ、社会のルールな
どなど部活の種類によって違いはあ
るかもしれませんが非常に多くのこ
とを得ることができたと思います。卓
球部員のひとりとして、それぞれ結果
があると思いますが、それがどんな結
果であれ、これからの良い学び
になってくると
思います。

三年生はこれ
で引退となりま
すが、今この瞬
間を大切に一つ
一つ、今の素直



なままで進んでいって欲しいと思
います。応援ありがとうございました。



最後まで諦めない

野球部保護者

三年生最後の大会、市長杯。野球部
の対戦相手
との実力は
互角で手に
汗握る展開
でした。

最終回二
アウトから
の粘りの攻



撃で、ベンチ一丸となつての押せ押せ
ムードもあと一步届かず、悔しい結果
となつてしまいました。最後まで諦
めない姿に父兄全員感動しました。
約二年間の部活動で先生方には、プ

レー以上に準
備や後片付け
などを通じ、
チームのため
に自ら考え率
先してやる事
の大切さを教
えて頂き、人
としてまた一
回り大きく成
長したと感じています。

ありがとうございました。

市長杯で全てを出し切る為に

男子バレー部保護者

三月末から市長杯までの四か月弱、
部員のお父さんと一緒に毎週土日の
夜に子供たちとバレーボールの練習
を始めました。

子供たちは日中も部活動で一生懸
命練習しているのに夜の練習も東中
体育館で元気いっぱい練習に励ん



でいました。総体が緊急事態宣言で中
止になつてもめげずに、市長杯を目指
して精一杯努力している姿を見まし
た。夜の練習ではOBや下級生、他部
活なのに手伝いに来てくれた同級生
の姿が度々あり胸を打たれるものが
ありました。

そして、みんなの想いを背負い、い
よいよ市長杯に臨みました。初戦は惜
しくも負けてしまいましたが、敗者復
活戦で見事二連勝し、西三大会への切
符を勝ち取ることができました。

子供たちも「自分達だけの力じゃな
い、みんなのおかげで強くなれた」と
言っており、これからの人生を歩んで
いく上で、バレーボールを通して得た
仲間との絆や成長はかけがえの無い
大きな財産になったと思います。私も
子供たちと一緒に練習できたこの数
か月は貴重な思い出となりました。今
までの練習本当に楽しかったです。有
難う。

